

様式 9

「川づくり団体」部門

河川基金助成事業

「プラスチックごみ問題と融合した
「水環境マップ」モデル案の提示」

助成番号： 2024 - 6111-021

特定非営利活動法人パートナーシップオフィス

理事長 西村 修

2024 年度

1. 活動の目的

山形河川国道事務所と協働して「水辺の散乱ごみ等の指標評価手法の開発」を行い、「最上川 2005 ゴミマップ」を制作発行した。その後、マイクロプラスチックが河川水中に確認されるなど新たな水質問題に進展しつつあることから、水質調査や川ごみ問題関係の団体と共に水質問題とごみ問題を融合させた「水環境マップ」のあり方について検討を行い、モデル案を提示する。新たなマップが各地の河川流域で制作される一助としたい。

2. 活動の内容

水質調査や川ごみ問題関係の団体と共に水質問題とごみ問題を融合させた「水環境マップ」のあり方について検討を行い、モデル案を提示するために関係者を交えた意見交換会を3回にわたり開催した。なお、意見交換会の開催に向けては関連情報の収集や事前説明を行った。意見交換会には国土交通省水管理・国土保全局河川環境課担当者、全国水環境マップ実行委員会、NPO 法人全国水環境交流会及び全国川ごみネットワーク関係者に参集いただいた。

意見交換会の開催日程及び内容は以下のおとり。

	開催日時	内容
第1回	2024年5月13日 16:00～18:00	・本事業の目的、背景、進め方について ・水環境マップ(身近な水環境の全国一斉調査)及び川ごみマップの現状 ・水環境マップ2.0/モデル案について
第2回	2024年6月17日 16:00～18:00	・第2回意見交換会の進め方について ・水環境マップ2.0/モデル案の目的、構成内容等について ・2025年度以降の展開について
第3回	2024年8月2日 16:00～18:00	・第3回意見交換会の進め方について ・水環境マップ2.0/モデル案の目的、構成内容等について ・関係者等との調整について ・2025年度以降の展開について

氏名	所属等

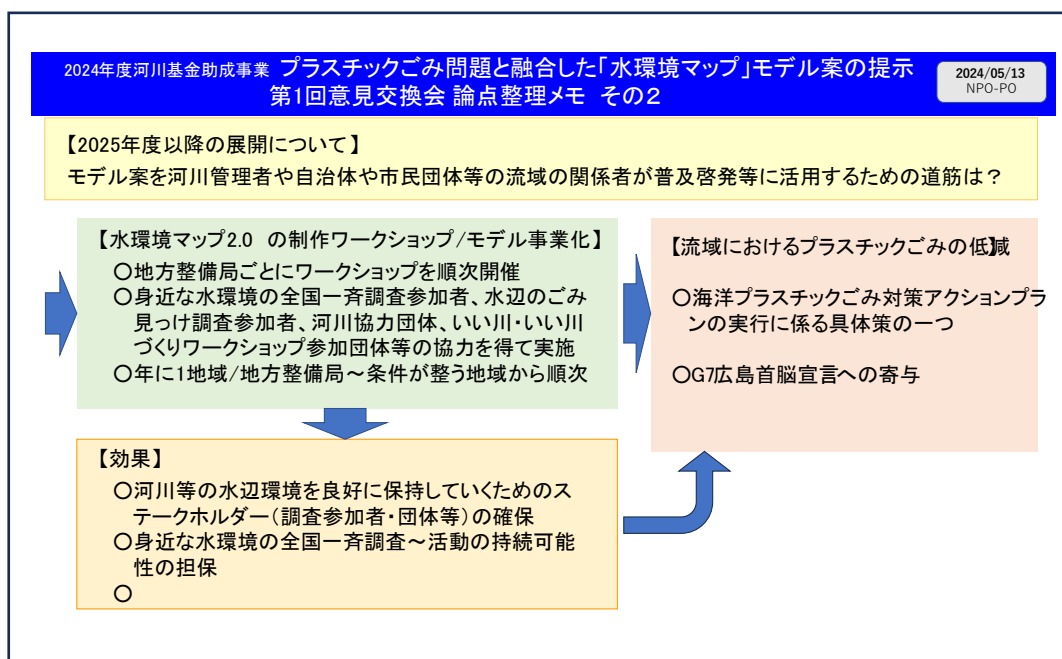
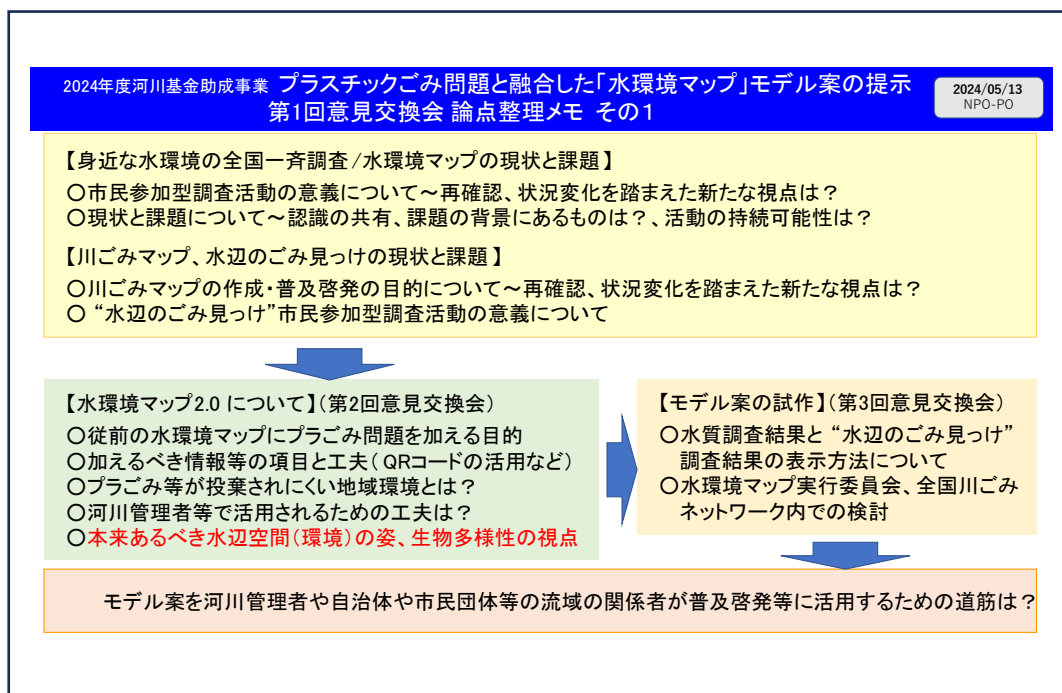
意見交換会メンバー



意見交換会の様子

第3回意見交換会以降についてはメールにてモデル案の内容についての調整、確認を重ね、成案として「水環境マップ2.0」(モデル案)を得た。意見交換を通じて、水質やごみ調査の情報以外に、生態系や親水空間などの流域環境の情報や防災上の情報を掲載するなど、流域市民らが望む情報を選択できる考え方が提示された。また、「水環境マップ2.0」の展開を含めて環境心理学の専門家からの助言も得た。


【第1回意見交換会配布資料の一部】



【第2回 意見交換会配布資料の一部】

2024年度河川基金助成事業 プラスチックごみ問題と融合した「水環境マップ」モデル案の提示 【資料1】 2024/06/17 NPO-PO

○第1回意見交換会での提案> 「身近な水環境の全国一斉調査」調査結果概要冊子を活用して、「水環境マップ」モデル案を提示
○「水環境マップ」のねらい、モデル案に掲載しておくべき関連情報等は何か？



《P16》
水環境マップ2.0
解説文

《P17》
仮想の流域マップ

《P18》
仮想の流域マップ

QRコードから関連サイトへの誘導

【課題】

- ・リンク情報の選定
- ・ごみ見つけ調査結果の表示方法

【水環境マップ2.0のねらい】

- ・2.0の提示で流域にもたらしたいメリットは何か
- ・健全な水環境とは、災害が発生した際に飲める、使える安全な水が身近にあり、確保できること。
- ・流域自治体の地域振興、地域経済への寄与
- ・水質やごみの調査を通じて、河川などの水辺に触れたり見つける機会を日常的につくる
- ・本来あるべき川(流域)の姿を追い求める
- ・調査結果報告書をガイドブックとして活用を図る
- ⇒ストレスない関連情報へのアクセス

【関連情報のリンク例】

水環境分野	河川ごみ問題	河川環境全般
<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある安全な水 ・水質調査団体等HP ・川の生き物調べ ・水循環関連サイト ・調査河川の昔今 ・湧水、井戸水、地下水 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川ゴミ調査マニュアル ・全国川ごみネットワーク ・環境省関連サイト ・流域自治体関連サイト ・マイクロプラスチック、人工芝問題 ・対策事例 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・多自然川づくり ・いい川 いい川づくりWS ・生態系ネットワーク形成 ・グリーンインフラ ・OECM 30by30 ・子どもの水辺再発見PJ ・水辺の楽校PJ など

2024年度河川基金助成事業 プラスチックごみ問題と融合した「水環境マップ」モデル案の提示 第1回意見交換会 論点整理メモ 補足 2024/05/13 NPO-PO

ポイ捨てごみ問題に対す 観点の変遷

まち美化問題 ⇒ 海洋ごみ問題 ⇒ 海洋プラスチック問題 ⇒ プラスチック汚染問題

1970年代	空き缶のポイ捨て問題	
1980年代	一部自治体によるポイ捨て禁止条例の制定	まち美化問題
1990年代	全国まち美化連絡会議の発足 “全国まち美化シンポジウム”	
2000年代	歩きたばこ禁止条例(千代田区) “離島ゴミサミットとびしま”“海ごみサミット” マイクロプラスチックを定義(NOAA)	海洋ごみ問題
2010年代	海岸漂着物処理推進法の制定(日本) 同法の改正 G20大阪サミット “大阪ブルーオーシャンビジョン”	海洋プラスチック問題
2020年代	G7広島サミット 大阪ブルーオーシャンビジョン目標前倒し 2050年 ⇒ 2040年 「プラスチック汚染を終わらせる: 法的拘束力のある国際文書(条約)」協議中	プラスチック汚染問題

【第3回 意見交換会配布資料の一部】

2024年度河川基金助成事業 プラスチックごみ問題と融合した「水環境マップ」モデル案の提示 【第3回 資料1】 2024/08/02 NPO-PO

第2回意見交換会での論点(「水環境マップ」モデル案のイメージ)

●健全な水環境とは、災害が発生した際に飲める、使える安全な水が身近にあり、確保できること。

○「水環境マップ」を通じて誰に何を期待するのか？
⇒「健全な水環境」とはどんな状態？なのか、考えてもきっかけになること
⇒川に関わる人を増やしたい
川(水辺)の現場に行く機会となる市民参加型調査に
加してもらうきっかけになること

○そのための伝え方は？
⇒分かりやすい表現、デザイン
国交省河川ゴミマップ～ニコニコ顔イラストなど
⇒モノゴトには光と影の側面があること
水質が良い、悪いは視点によって違ってくること
プラスチックごみも便利な素材である一方で生物への
影響もある等

《モデル案作成の基本的考え方》

- ・地域の河川(流域)を対象にして「水環境マップ」を作成していく際のガイドラインであること
- ・流域毎に「健全な水環境」を探る運動でもあること
- ・流域市民、団体と管理者等が協働で作成し、いい川いい川づくりWSとの運動も視野に入れて展開されてこと

○管理者の視点が強いと「データ」に着目し過ぎてしまう
⇒ごみ投棄の現状について、どのようなデータで何を伝えたいのか？

- ・回収処理費～税金の浪費
- ・ポイ捨て場所～重点対策の必要性
- ・粗大ごみと散乱ごみ

具現化～国土交通省各河川(国道)事務所作成の河川ゴミマップの更新時にも取り入れてもらう

○水辺空間を活用している場所(子どもがいる場所)を明示

○QRコードの掲載(箇所程度が限界(優先される情報の選択))
⇒地域限定情報、全国共通情報

【関連情報のリンク例】

水環境分野	河川ごみ問題	河川環境全般
<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある安全な水 ・水質調査団体等HP ・川の生き物調べ ・水循環関連サイト ・調査河川の昔今 ・湧水、井戸水、地下水 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川ゴミ調査マニュアル ・全国川ごみネットワーク ・環境省関連サイト ・流域自治体関連サイト ・マイクロプラスチック、人工芝問題 ・対策事例 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・多自然川づくり ・いい川 いい川づくりWS ・生態系ネットワーク形成 ・グリーンインフラ(流域治水) ・OECM 30by30 ・子どもの水辺再発見PJ ・水辺の楽校PJ など

「水環境マップ 2.0」の展開 ～ コラボレーションによる流域環境見守り体制の構築 ～

深刻化するプラスチック汚染

2023年G7広島サミットでは、2040年までに河川などを通じて陸域のプラスチックごみの海域への流出をゼロにするなど、野心的に宣言した。

国土交通省の取り組み

河川へのごみ等の投棄の防止を図るため、普及啓発活動のほか、河川巡視等による不法投棄の抑制、地域と連携した清掃活動の実施等によりごみ等の投棄がしにくい **地域環境の創出** 等に努める。

従前からの清掃活動や普及啓発のままで「ごみ等の投棄がしにくい地域環境の創出」は可能か

2005年「最上川2005ゴミマップ」の発行

- ・ごみ量の「もの差し」
⇒散乱ごみの指標評価
- ・海のごみ問題とのつながりを明記
- ・山形県内の小中高校や公共施設への配布、出前授業での活用等



河川管理者が作成している「河川ゴミマップ」

- ・国土交通省の河川(国道)事務所が作成するマップは、2024年6月現在166件/一級河川109水系
- ・多くのマップは「粗大ごみ」について、処理云々の表記
- ・HP上での公開
- ・数値、分類は統一されていない
- ・啓発ツールとしての活用は？

そこで、

最終的な目標が同じと考えられる、

- ・「身近な水環境の全国一斉調査」(水環境マップ実行委員会)
- ・「河川ゴミマップ」(国土交通省)
- ・「身近なごみ見つけ！」(全国川ごみネットワーク)

のコラボレーション(合作、共演)の可能性を探りながら、新たな「水環境マップ2.0」を展開できないだろうか？

2024年度河川基金へ応募、採択
(NPO法人パートナーシップオフィス)

- ・上記関係者に相談役として全国水環境交流会を加えた意見交換会を設置、3回開催

「水環境マップ2.0」の観点

- ・健全な水環境の定義(防災含む)
- ・人が水辺に触れ、見つめる機会を増やし、本来あるべき川(流域)の姿を考える
- ・活動結果のアウトプットの工夫

モデル案作成の基本的考え方

- ・地域河川(流域)を対象に作成していく際のガイドライン
- ・流域毎に「健全な水環境」を探る運動でもあること
- ・多様な流域関係者と管理者等が協働で作成していくこと



川や水辺の名称	最上川など	活動や事業の名称または応募に当たってのテーマ
所在地	山形県酒田市	「水環境マップ2.0」の展開を通じた流域環境見守り体制の構築
応募者名(ふりがな)所属団体名	NPO法人パートナーシップオフィス & 全国川ごみネットワーク	エントリー No. 204

4. 今後の展望

国土交通省地方整備局の河川(国道)事務所で発行している「河川ゴミマップ」の更新の際などに、本助成事業で提示した「水環境マップ 2.0」(モデル案)を参考に流域の市民団体等と協働して更新版が制作されるよう働きかけを行う。また、次年度の河川基金助成申請において、実際の河川流域(新河岸川水系の落合川・黒目川)を対象に制作し、更なる改善点を探りつつ国内の各流域への展開に向けて周知を図りたい。

以上

様式 10

3.川づくり団体部門

[実施箇所位置図]

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2024-6111-021	プラスチックごみ問題と融合した「水環境マップ」モデル案の提示	特定非営利活動法人パートナーシップオフィス 理事長 西村修
	主な実施箇所	特定非営利活動法人全国水環境交流会事務所 会議室
助成事業の主な実施箇所	※屋内会議室での意見交換会中心の活動であることから所在地のみを記載 東京都渋谷区神宮前 1-20-14 神宮村 301	
河川基金ロゴ等表示状況写真	遠景	近景